



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月11日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 昌俊

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	6,550	22.0	362		323		370	
2020年3月期第2四半期	8,399	1.7	274	11.2	305	1.7	196	0.0

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 356百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 183百万円 (7.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	19.08	
2020年3月期第2四半期	10.10	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	15,671	13,733	87.6
2020年3月期	15,967	14,089	88.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 13,733百万円 2020年3月期 14,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,011	9.2	593		523		612		31.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	21,076,154 株	2020年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	1,668,296 株	2020年3月期	1,668,365 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	19,407,816 株	2020年3月期2Q	19,408,153 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が国内外の経済活動に大きな影響を及ぼし、景気が低迷し、大変厳しい状況になりました。国内では、緊急事態宣言解除による経済活動の再開に伴い、個人消費の回復が期待されたものの、新規感染の再拡大に対する不安が依然として拭えず、雇用・所得環境の悪化や消費者マインドの冷え込みによる消費活動への影響の長期化も懸念され、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、お客様並びに従業員の安全・安心の確保を最優先課題と位置づけ、新型コロナウイルス感染予防策の徹底に取り組んでまいりました。また、当社は、2021年に創業80周年、設立60周年を迎えます。お客様からの長年のご愛顧に応えるべく、引き続きお客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策を推進し、新型コロナウイルス感染症の収束後の事業展開を見据えた取り組みも併行して行うとともに、組織面においても、業務の効率化と働き方改革に取り組む組織の活性化を進めております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は6,550百万円（前年同四半期比22.0%減）となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が期初から5月にかけて顕著に現れ、来店客数が大幅に落ち込んだため、第1四半期連結会計期間は前年同四半期比で35.9%減となりました。当第2四半期連結会計期間は、緊急事態宣言解除を受け、売上は概ね回復したものの、前年9月度の消費増税前の駆け込み需要の影響もあり、前年同四半期比で10.1%減となりました。売上総利益率は、主に価格施策や品種別の売上構成比の変化の影響で1.2ポイント上昇しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底を図り、チラシやCMの自粛による広告宣伝費の抑制、その他の販売費の圧縮、休業店舗のテナント家賃の減免、休業や営業時間の短縮による時間外勤務の減少などにより、販売費及び一般管理費は4,953百万円（前年同四半期比10.2%減）となりましたが、売上高販管費率は大幅な売上高の減少が響き10.0ポイント上昇しました。

この結果、営業損失は362百万円（前年同四半期は営業利益274百万円）、経常損失は323百万円（前年同四半期は経常利益305百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は370百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益196百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応した商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図るとともに、お客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性の確保とマーケティングの強化を通じて、質の高いサービスを提供できる体制の構築に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、期初から5月にかけて新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、ロードサイド店舗以外の一部インショップ店舗における臨時休業や時短営業に加え、外出自粛に伴って一時的に客足が遠のく状況に陥ったことなどが影響した結果、第1四半期連結会計期間において、中心品目のメガネ販売は前年同四半期比で32.6%減少し、準主力品目の補聴器、サングラスの売上も各々41.2%、54.9%減少しました。6月以降客足は徐々に戻り、当第2四半期連結会計期間におきましては、メガネ販売と補聴器は、前年同四半期比で各々5.8%減、12.0%減まで回復したものの、サングラスは、夏場にかけてのハイシーズン時期の長梅雨・大雨・日照不足などの天候不順や外出自粛の影響に加え、イベント・スポーツなどの屋外活動に対する政府や自治体による注意喚起の広がりもあり、前年同四半期比32.0%減と売上不振の状況が続きました。以上により、当第2四半期連結累計期間においては、メガネ販売は前年同四半期比で18.0%減少し、また、補聴器、サングラスの売上は各々26.5%、42.4%減少し、全体においても前年同四半期比で大幅な減収となりました。

店舗につきましては、神奈川県横須賀市に1店舗を新規出店したことに加え、6店舗で既存店の活性化を目的とした改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は6,294百万円（前年同四半期比21.7%減）、セグメント損失は296百万円（前年同四半期はセグメント利益327百万円）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた取引先への販売支援に努めてまいりましたが、取引先の売上不振等によって卸売上額が大幅に減少しました。

この結果、売上高は187百万円（前年同四半期比22.2%減）となり、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント利益2百万円）となりました。

[写真館事業]

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための外出自粛や、緊急事態宣言の発出に伴い全店舗の臨時休業や営業時間の短縮を余儀なくされたことにより、撮影日の変更やキャンセルなどが増え、撮影件数が大幅に減少しました。全店が揃って営業再開した6月以降は、感染予防策としての来店の前予約制度や、成人式や卒業式の着物レンタル事前予約のお客様に対しては、万が一、式典が中止になった場合、キャンセル料を無料とする対応をするなど「安心・納得・顧客第一」の方針で取り組んでおります。写真館では、お客様に安全・安心な環境のもとで撮影に臨んでいただけるよう引き続き安全対策を万全にした上で、お客様の人生の節目節目の記念日を感動的で素敵な思い出にできる撮影メニューやお召しいただく素晴らしい衣装や小物を数多く揃え、営業に取り組んでまいります。

この結果、写真館事業における売上高は28百万円（前年同四半期比28.0%減）、セグメント損失は27百万円（前年同四半期はセグメント損失41百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、北京市、天津市所在の直営店やフランチャイズ店では、住民の外出規制の影響を受け、客数は大幅な減少となりましたが、5月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が最悪期を脱し、以降、客足は徐々に戻ってきております。

この結果、売上高は40百万円（前年同四半期比46.4%減）、セグメント損失は15百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、現金及び預金の減少、敷金及び保証金の減少等により296百万円減少し、15,671百万円（前連結会計年度末比1.9%減）となりました。また、負債合計は賞与引当金の増加、未払法人税等の減少等により60百万円増加し、1,938百万円（前連結会計年度末比3.2%増）となり、純資産合計は13,733百万円（前連結会計年度末比2.5%減）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、2,421百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは△164百万円（前年同四半期は417百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、税金等調整前四半期純損失323百万円、賞与引当金の増加額130百万円、減価償却費103百万円、法人税等の支払額△91百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは△27百万円（前年同四半期は△363百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、有形固定資産の取得による支出△128百万円、その他に含まれる敷金及び保証金の返還による収入106百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△17百万円（前年同四半期は△132百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、リース債務の返済による支出△17百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月11日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては2020年11月5日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,376	5,151
受取手形及び売掛金	636	650
有価証券	—	200
商品及び製品	2,088	2,060
原材料及び貯蔵品	32	30
その他	262	302
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	8,393	8,393
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,050	1,037
土地	1,878	1,878
その他（純額）	301	338
有形固定資産合計	3,231	3,255
無形固定資産		
リース資産	4	—
その他	79	71
無形固定資産合計	84	71
投資その他の資産		
投資有価証券	672	497
敷金及び保証金	3,187	3,060
その他	398	392
投資その他の資産合計	4,258	3,950
固定資産合計	7,573	7,278
資産合計	15,967	15,671

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	443	414
未払法人税等	155	109
賞与引当金	1	132
その他	760	758
流動負債合計	1,361	1,414
固定負債		
繰延税金負債	13	19
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	328	330
リース債務	6	7
その他	162	159
固定負債合計	516	523
負債合計	1,878	1,938
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,124	4,754
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	16,514	16,143
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	37
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	24	22
その他の包括利益累計額合計	△2,424	△2,410
純資産合計	14,089	13,733
負債純資産合計	15,967	15,671

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	8,399	6,550
売上原価	2,610	1,959
売上総利益	5,789	4,591
販売費及び一般管理費	5,514	4,953
営業利益又は営業損失(△)	274	△362
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	4	5
受取家賃	38	37
その他	14	18
営業外収益合計	61	64
営業外費用		
固定資産除却損	5	1
貸貸費用	24	23
その他	0	0
営業外費用合計	30	25
経常利益又は経常損失(△)	305	△323
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
投資有価証券評価損	2	—
減損損失	25	—
特別損失合計	27	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	279	△323
法人税、住民税及び事業税	83	46
法人税等調整額	△0	0
法人税等合計	83	46
四半期純利益又は四半期純損失(△)	196	△370
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	196	△370

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	196	△370
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	15
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益合計	△12	13
四半期包括利益	183	△356
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	183	△356
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	279	△323
減価償却費	89	103
減損損失	25	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	37	130
売上債権の増減額(△は増加)	△46	△14
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7	28
仕入債務の増減額(△は減少)	△73	△28
その他	142	20
小計	446	△82
利息及び配当金の受取額	7	7
法人税等の支払額	△46	△91
法人税等の還付額	9	2
営業活動によるキャッシュ・フロー	417	△164
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△23
定期預金の払戻による収入	1	36
有形固定資産の取得による支出	△339	△128
有形固定資産の売却による収入	8	—
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
投資有価証券の売却による収入	11	—
その他	△42	90
投資活動によるキャッシュ・フロー	△363	△27
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△56	△17
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	—	0
配当金の支払額	△76	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△132	△17
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△79	△210
現金及び現金同等物の期首残高	2,662	2,631
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,583	2,421

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	8,044	240	39	75	8,399	—	8,399
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	37	—	—	37	△37	—
計	8,044	278	39	75	8,436	△37	8,399
セグメント利益又は損失 (△)	327	2	△41	△5	283	△9	274

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△14百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	25	—	—	—	—	25

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	6,294	187	28	40	6,550	—	6,550
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	28	—	—	28	△28	—
計	6,294	216	28	40	6,579	△28	6,550
セグメント損失 (△)	△296	△6	△27	△15	△345	△16	△362

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分して
 いない全社費用△21百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結
 財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。